

J-STAGE

2017年度実績および今後の予定 (補足資料)

2018年3月9日

知識基盤情報部 研究成果情報グループ



科学技術振興機構

画面リニューアル

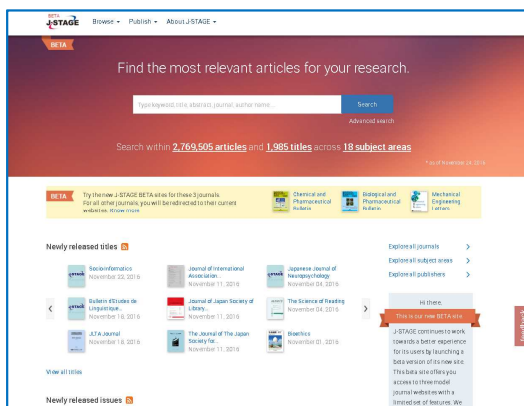
【リニューアルの背景・取り組み】

- ◆ J-STAGEの画面まわりについて多くの課題・要望（直感的に操作しにくい、表示される英語が分かりにくい、ジャーナルの情報をもっと効果的に発信したい等）
- ◆ 海外のジャーナルプラットフォームを参考に、見やすく、使いやすく、海外発信力強化へ繋がるサイトとなることを目指して、J-STAGE評価版（利用者からご意見をいただく試験サイト）を製作・公開

2016年5月18日～：第一弾

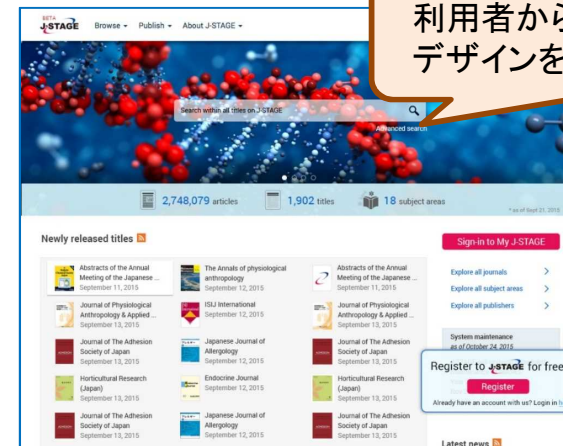
J-STAGE評価版を試験的に公開開始（※モデル誌3誌のみ公開）

※日本薬学会：「Chemical and Pharmaceutical Bulletin」、
「Biological and Pharmaceutical Bulletin」
日本機械学会：「Mechanical Engineering Letters」



2017年3月29日～：第二弾

J-STAGE評価版の画面デザインを一新（引き続きモデル誌3誌のみ公開）



利用者からの意見を反映し、
デザインを大きく変更

	2015年	2016年	2017年	2018年
J-STAGE		(旧画面)		新画面
J-STAGE 評価版		第一弾	第二弾	

- ◆ 2017年11月25日より、評価版の画面デザインをJ-STAGE登載全誌に適用

NII-ELS登載誌のJ-STAGEデータ移行

- NIIが平成29年3月まで運営していた電子図書館事業(NII-ELS)に登載されていた学術刊行物等資料のうち、J-STAGEに登載申請がなされ、JSTが登載を承認したものについて、J-STAGEへのデータ移行を実施。
- J-STAGEにおける記事公開にかかる学協会の負荷を軽減し、早期公開を促進することを目指し、公開日などを一括設定処理できるツールを開発。

2018年1月・2月 J-STAGE利用機関による記事公開作業の加速に向け、J-STAGE編集登載システムを改修した一括設定機能をリリース(公開日、認証、査読有無、記事記述言語)

■ J-STAGEへのデータ移行申込数 (2018年1月15日現在)

ジャーナル数(移行申込数) : 621誌

記事数 : 1,893,285記事

	JST作業(データ移行登載)		学協会作業(移行データの公開)		
	ジャーナルサイト構築(誌数)	ELS記事データ移行(誌数)	公開開始ジャーナル(誌数)	公開済み(記事数)	完了済み(誌数)
総数	621	621	621	1,893,285	621
実績数	621	621	505	1,214,797	424
進捗率	100%	100%	81.3%	64.2%	68.3%

ジャーナルの品質向上に向けた個別コンサルティング

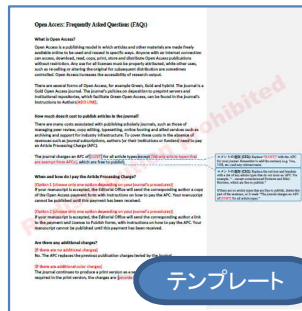
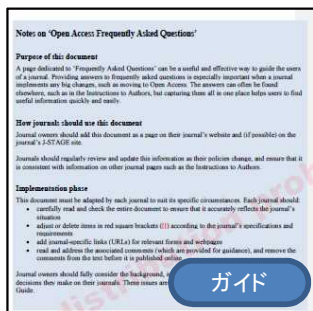
- J-STAGEの国際情報発信力をより強化していく為には、システム／コンテンツの両面で国際的標準とされる各種要件を満たし、先行する海外主要サービスを追走し、追いつくことが必要不可欠。
- J-STAGE掲載ジャーナルの品質向上を目指し、国際的標準を満たすためのジャーナルへの支援を開始。
- テーマの一つとして取り上げたオープンアクセスに関して、2016年度の「オープンアクセスガイドライン」作成に続き、2017年度は本ガイドラインの学協会への配布、オープンアクセス誌移行に向けた専門家による個別コンサルティングをパイロット的に実施。(日本薬学会「Biological & Pharmaceutical Bulletin」、日本食品科学工学会「Food Science and Technology Research」)

オープンアクセスガイドの作成 (2016年度実施)

オープンアクセスジャーナルとして備えるべき標準的な事項をまとめたガイドライン文書を作成し、学協会へ配布。

学協会が、著者や読者に提供すべき情報を掲載

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. OA標準ドキュメントテンプレート | 5. 査読者向けガイド |
| 2. FAQ | 6. License to publish |
| 3. 著者向けインストラクション | 7. オープンアクセスガイド |
| 4. 倫理方針 | 8. ジャーナル作成ガイド |



ジャーナルの品質向上に向けた個別コンサルティングの実施 (2017年度、パイロット的に実施)

専門家による個別コンサルティングの下、本パイロットに参加する学協会／ジャーナルの現状分析、オープンアクセス誌への移行に際して生じる課題の抽出およびその対処方法の検討等を実施。▶ 3月20日 J-STAGEセミナーにおいて、本プロジェクトを通じて得た知見や課題の紹介と今後の展望に関する議論を実施予定

オープンアクセスへの移行に向け、学協会がとるべき対応についてのコンサルティング支援を実施

- 1) OAの概要紹介、OAの要件に関する情報提供
- 2) 発行学協会／ジャーナルの現状分析
- 3) OAに向けた改善事項と移行に向けたアクションプラン
 - 財務的観点：OAモデル、APCの設定
 - 対応事項：会員向け説明
 - 指針等：APCや権利放棄などに関する方針
 - CCライセンス等のライセンスの取扱い

J-STAGEセミナー

年間テーマ:「オープンサイエンス時代に対応したジャーナル出版のありかた」

【第1回】2017年4月4日

「オープンアクセスジャーナルに求められることとは」(参加者55名)

オープンアクセスジャーナルに必要な要件の説明

- ・JST「J-STAGEとオープンアクセス」
- ・Tom Olijhoek氏(DOAJ)「Criteria for Open Access Publishing and Indexing in DOAJ」
- ・Dugald McGlashan氏(INLEXIO)「The Guide to Open Access」

【第2回】2017年8月1日

「データ出版の役割と現状」(参加者数79名)

データ公開の新しい手法であるデータジャーナルの紹介

- ・林 和弘氏(科学技術・学術政策研究所)「なぜ今データジャーナルなのか?オープンサイエンスの実装に向けて」
- ・徳永 勝士氏(日本人類遺伝学会『Human Genome Variation』編集長)
「データベースつきオープンアクセスジャーナルの創刊: Human Genome Variation」
- ・末次 大輔氏(国立研究開発法人海洋研究開発機構『JAMSTEC Report of Research and Development』編集委員長)
「JAMSTEC Report of Research and Developmentにおける「データ論文」カテゴリ新設の経過」
- ・南山 泰之氏(国立極地研究所『Polar Data Journal』編集事務局)「Polar Data Journalの取組み」

【第3回】2018年3月20日(予定)

「平成29年度ジャーナルコンサル(パイロット)報告とJ-STAGEユーザー集会」

個別コンサルティングにおいて参加機関から本プロジェクトで得た知見や課題について紹介。また、信頼性の高いオープンアクセス誌の要件について再確認した内容を参加学協会と共有

- ・細谷 健一(日本薬学会 学術誌編集委員会 委員長)
- ・川本 伸一氏(日本食品科学工学会 専務理事)

システム関係

➤ 標準規格のバージョンアップ

電子ジャーナルプラットフォームとして備えるべき標準規格のバージョンアップを行う。

- XMLバージョンアップ(2018.9リリース予定)

J-STAGEにてサポートするXMLのバージョンにJATS1.1を追加するため、DTDをJATS 1.1に合わせ、JATS 1.1形式のXML登載データをアップロードできるようにする。ただし、従来のJATS 0.4形式のXML登載データも引き続きアップロード可能とする。

- COUNTER Release5準拠(2019.1リリース予定)

COUNTER(Counting Online Usage of Networked Electronic Resources)規格の最新バージョンであるRelease5に準拠したアクセス統計レポートの出力機能をJ-STAGEに適用する。SUSHIプロトコル対応も含まれる。

➤ Altmetricバッジの導入(時期検討中)

J-STAGE登載誌のうちAltmetricスコア上位100誌について、Altmetricバッジを表示する。

➤ 外部サービス連携用データ出力機能の追加(2018.9リリース予定)

外部サービスのクローラーからのアクセスに対し、J-STAGEに登載した記事へアクセスするためのサイトマップとなるリスト情報、および各記事の書誌XMLデータを出力するAPI機能を追加する。

➤ 基盤移行(2018.8～2019.3)

J-STAGEを搭載しているJST共通IT基盤のリプレイスに伴い、新基盤への移行作業を実施する。

サービス関係

➤ ダークアーカイブ(2018.10頃～)

Porticoと連携したダークアーカイブを開始する予定。信頼されるジャーナルプラットフォームとして、J-STAGE掲載データの長期保存、および自然災害などの非常事態が生じた場合にPorticoを通じてコンテンツ提供を継続することを目的としている。

➤ ジャーナルコンサル(パイロット)

2017年度に引き続き、ジャーナルの品質向上に向けた個別コンサルティングをパイロットとして実施する。現在、対象誌選定および具体的なテーマ設定に向けて、利用機関に対するヒアリングを実施している。対象誌は新規3誌の予定。

➤ DOAJ登録支援

オープンアクセス誌をカテゴリー別にまとめたサイト検索サービスであるDOAJ(Directory of Open Access Journals)への登録支援を実施する。支援内容は、「OAとは何か」「DOAJとは何か」等のページの公開、DOAJの申し込みフォーム・サービス概要資料等の和訳の公開。2015年11月時点では、J-STAGE掲載誌70誌がDOAJに登録されていたが、2016年3月にDOAJが掲載基準を厳格化したことに伴い、現在は3誌の掲載に留まっている。

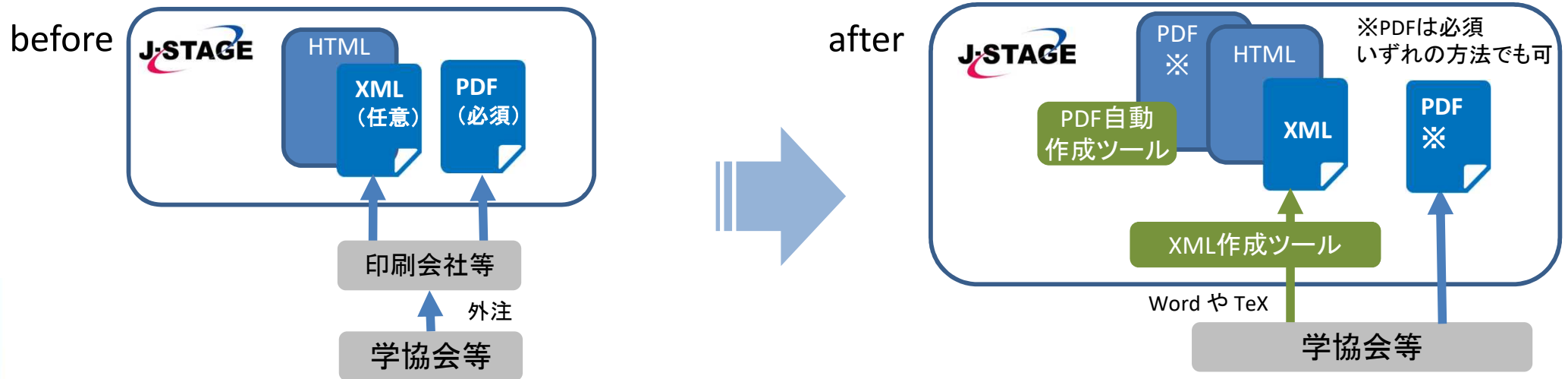
➤ J-STAGE中長期ビジョンの策定・公開

J-STAGEの今後(5～7年程度)の運営方針を提示・共有するマテリアルとして中長期ビジョンを策定・公開する。策定にあたり、当委員会を年度内に最大2回開催して助言を受ける予定である他、中間取りまとめ案を公開して一般から意見を募ることを検討している。

その他(検討中)

J-STAGE掲載論文およびその論文に紐付く研究データの利活用を目指し、以下の取組について検討を行っている。

・XML化のための開発(XML作成ツール開発、PDF自動作成ツール開発等)



・論文に紐付く研究データを、NII等の研究データ基盤に登載するための開発
 ・NII等の研究データ基盤に登録した研究データ及び電子付録にDOIを付与するための開発

